

ユニット名:A・B

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	365日すぐやる、必ずやる、できるまでやるを念頭に置き、利用者様に良いと思うことはすぐに実践している。	全職員に経営方針書が配布されている。朝礼時に理念を中心に唱和して、共有するとともに実践に繋げている。また、新入職員については先輩職員が面接等を通して教育している。家族には利用契約時に理念に沿った支援の説明をすると共に「生活リハビリ」を中心にした年度スローガンの内容を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との挨拶を励行している。町会費納付。地域のお祭りに協賛。地域児童の夏休みのラジオ体操会場として事業所駐車場を使ってもらっている。	開設以来、町会費を納めて、地域に開かれ、親しまれる施設として活動している。コロナ禍で中止されていた岡田神社の花火大会が再開され、賛助金を奉納した。利用者も花火を楽しんだ。また、夏休み中は当ホームの駐車場が地域児童のラジオ体操会場として利用されている。更に、高校生が職場体験で来訪し、利用者と傾聴中心に交流している。今後は、コロナ感染上を注視しながら、ボランティアの来訪促進の意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習の受け入れを行っており、認知症の理解の学びの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の状況を報告して、頂いたご意見を参考にしている。	町会長、民生児童委員、公民館長、地域包括支援センター職員、地域薬局薬剤師、他グループホーム管理者、ホーム関係者が出席して奇数月に開催している。利用者状況、活動報告、活動に対する評価、要望等の意見交換、地域からの情報提供等が行われサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに定期的に訪問して協力関係を築いている。	松本市北部地域包括支援センターとは運営推進会議にも出席して頂いている。事故ヒヤリハット報告等も速やかに行い定期的に訪問して様々な事柄に付いて相談するなど連携を取っている。当ホームは市指定のホームとして登録されて居り、市主催の研修会には必要に応じ参加して連携を取っている。介護認定更新調査は市の調査員が来訪しホーム長が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度の研修を行っている。玄関は防犯のため施錠している。	法人の方針として拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は安全確保の為施錠されている。帰宅願望の強い利用者が数名いるが、気持ちが落ちつくまで職員が話を聞いたりしている。転倒落下危険のある利用者には家族と相談の上で、数名が人感センサーやセンサーマットを使用している。身体拘束・虐待防止研修会を年2回実施していることに加え、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、拘束に対する知識を高めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1度の研修を行っている、職員へアンケートを実施、日頃から意識付けを行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に数回の研修を職員向けに行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を作っていたき、契約説明し、問題点や疑問点などをお聞きしご理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見・要望は日々の会話でお聴きしている。ご家族へのアンケート調査をしている。また、面会時にお聴きしている。	今年4月より感染防止対策を取った上で、居室での面会が再開された。ホームでの生活の様子は毎月発行の「岡田松岡便り」で知らせると共に、利用者個々の様子は担当職員が手紙に写真を添え、請求書に同封して家族に届けている。また、SNSでホームの様子を動画配信して家族より好評を得ている。コロナ禍で以前行っていた家族会が中断されているが、夏祭りや敬老会等の行事への家族の参加を計画したいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人面談を行い、意見を聞く機会を設けている。	月1回の全体会議で、本社からの連絡事項、利用者個々の対応についての話し合い、各種勉強会、事故ヒヤリハットの報告及び意見交換等を行っている。法人として人事考課制度があり、半期の初めに設定した目標を期末に自己評価を行っている。賞与前にホーム長による個人面談が行われ、評価とスキルアップに繋げている。また、職員対象にストレスチェックが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を設けている。日頃の働き方など評価を行い賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員からレベルを設定し研修を設けている。それぞれのレベルに合わせた研修となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と運営推進会議を通じて交流をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それぞれの職員が声かけを行い、困っていることや不安を察知している。また不安があればすぐに対応できるよう心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様へ要望を伺い、できる限り実践できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで本人・ご家族のニーズを確認してケアプランを作成し実践している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理など利用者様と一緒にを行うよう心がけている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会に来ていただけるようお願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方は一時帰宅していただき家族と一緒に過ごす時間を作ってもらっている。	家族から連絡で親戚、お孫さん等が来訪し、利用者と歓談している。また、コロナ禍も落ち着きつつあり、家族の都合に合わせて1～2泊で家に帰る方や買い物や昼食を兼ねて家族と外出される方も数名いる。美容師が2ヶ月に1回来訪しカットを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の他者との関係性を観察して座る位置を検討して対応している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にご家族へ連絡して状況をお聞きするよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話す時間を作り、以前の暮らし方や本人の思いを聞き取り、変わらない生活ができるよう支援に努めている。	若干名の方が自分の意思を表す事が難しい状況であり、問い掛けに対する表情や仕草より希望を受け止めている。殆どの利用者は言葉で思いを伝えられる状況に有り、利用者の意向に沿った支援を心掛けている。日々の業務で気付いた言動等はタブレットの中の介護記録に記入するとともに情報を共有して出勤時や申し送り時に確認し合って日々の支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族へ馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービス利用についてお聴きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調管理に努めている。また日々の暮らしの場で一人一人何ができるかを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの場で課題をみつけ、全体会議にて課題分析を行っている。職員の意見を聴き介護計画へ反映している。	職員は1～2名の利用者を担当し、利用者個々の状況把握、居室管理等を行っている。入所時は家族からお聞きした情報を参考に3カ月の暫定プランを作成して、全体会議の中で意見を出し合ってモニタリングを行い、短期6ヶ月プラン作成、状態が安定している場合は長期1年プランを作成している。状態に変化が見られる場合は適宜プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変化などを記録し、職員間で申し送りを行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメントで本人・ご家族のニーズを確認してケアプランを作成し実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の地域活動へ以前は参加していたが、感染症の流行から参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医へ利用者一人一人の状態を伝えており、急な状況にも適切な対応、指示をいただいている。また担当薬剤師とも連携を図っている。	入所時に医療機関の希望を伺いホームとしての取り組みも説明している。現在、若干名が入所前からのかかりつけ医、殆どの利用者はホーム協力医の月1回の往診を受けている。11月より非常勤看護師1名が勤務予定されており、日々の健康管理と医師との連携を図る予定である。取引薬局の薬剤師が運営推進会議の構成メンバーでもあり、薬の管理や投薬についての確かなアドバイスを頂いている。歯科は定期的に歯科医と歯科衛生士が来訪し、口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は雇用していないが、かかりつけ医の看護師と連携し相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院の相談員と連絡を取り、情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と確認は契約時に行っている。	重度化、終末期に向けた指針が有り、利用契約時に説明して同意書を頂いている。状態が変化し終末期を迎えた時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設けて家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて、医療行為を必要としない看取りを行っている。1年以内に若干名の看取りを行い、好きだった「アイスクリーム」をお口に運んだり、居室内に音楽を流すなど気配りをした。また、家族には毎日自由に面会出来る環境を整えて最期の時を共にして頂いた。看取り後は振り返りの時を設けて良かった点などを共有した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	三カ月に1回の研修を実施、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の災害・避難訓練を実施している。	消防署への届け出の上、年4回防災訓練を実施している。5月には大雨でBユニットが床下浸水した想定で利用者全員Aユニットへ移動しての避難訓練を行った。8月には消防署参加の下、Bユニットのキッチンより出火を想定し、利用者を屋外へ誘導しての避難訓練、水消火器を使つての消火訓練、通報訓練を行った。11月には地震想定での避難訓練を予定している。また、3月には消防署参加の下、消火訓練、通報訓練を予定している。緊急連絡網の確認訓練は定期的な実施を予定している。「水」「食料」「介護用品」等を3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時には耳元で呼びかけている。経営方針書に沿った声かけを行っている。	人生の先輩に対し基本的には敬語を使うように心掛け、方言等も交えながら優しく接している。また、トイレ介助の際には周りに分からないように気配りをし、利用者の前では他の利用者の話はしないように徹底している。呼び方は苗字を「さん」づけで呼び、居室への入室の際にはノック3回、トイレは2回する様になっている。年2回接遇、人権擁護の研修会を行い、プライバシーに対する意識を高めて日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に好きな飲み物を選んで頂いたり、おやつなど数ある中から選べるよう提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調や気分を把握しその日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人の好む服装、身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の状態に合わせて、食べやすい形態などに行っている、食器も持ちやすさなど工夫。食事の下準備や片付けなど職員と一緒にしている。	現在は全利用者が自力で食事が出来る。献立は季節感も加味された配食会社の物を用いて職員が調理して出来立ての物を温かいうちに提供している。利用者は個々の希望と持っている力に合わせて、「盛り付け」「食器拭き」「後片付け」等の手伝いに参加している。時折おやつレクリエーションを行って「ミニどら焼き」「おはぎ」「桜餅」等を手作りして味わっている。また、コロナの感染状況を見ながら「回転寿司」等の外食にも出掛けたい希望を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日記録している。食事が進まない時は声かけ、食材、料理の説明をして興味をもってもらえるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状況に応じた口腔ケアを実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は薄いパッドを使用している。利用者様の様子を観察してトイレの声掛けをしてお連れしている。	排泄は、ほぼ自立、布パン使用が数名いる。一部介助が四分の三弱、全介助が若干名の状況である。タブレットの中の排泄記録も参考にして起床時、おやつ時、食事前、就寝前の定時の誘導の他、様子を見ながら早めに誘っている。排泄は、4日間無い場合に排便コントロールを行っている。現在数名の利用者がコントロールを行っているが、お茶を中心にスポーツドリンク、コーヒー、紅茶、ヤクルト、ヨーグルト等の1日1500cc以上の摂取による排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促し、量の把握に努めている。調子が良い時は歩いていただくよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの日々の状態を把握し、お誘いの言葉など工夫している。また季節にあったゆず湯やしょうぶ湯など取り入れている。	全利用者何らかの介助が必要な状況である。その中で若干名の利用者は全介助のシャワー浴を行っている。基本的には週2回の入浴を行っているが、入浴拒否の方が数名おり、誘い方に工夫をして入浴を促している。また、「ゆず湯」「リンゴ湯」等季節のお風呂も楽しんでいる。家族と温泉に出掛けている利用者も若干名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操など心がけている。寝具など自宅で使っていた使い慣れたものを使用し気持ちよく眠れる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の体調変化に伴い、主治医と相談しながら少しずつ減らしていくよう努めている、また薬剤師とも連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・掃除・台所仕事・裁縫等、できる家事をやっていたり役割を持てるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をお聞きしてドライブや散歩にお連れしている。	施設内では歩けるが外出時は自力の方が三分の一強、杖、歩行器使用が数名、車いす使用が三分の一の状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、広い駐車場のベンチに腰掛け北アルプスの山々を眺めながら外気浴を楽しんでいる。感染対策を取った上での外出も少しずつ再開され、今年は春の花見から秋の紅葉見物まで松本城周辺にドライブを兼ね外出している。また、時折松本市内～安曇野方面にドライブに出掛けたり、正月には近くの長野県護国神社に初詣に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・ご家族の希望を確認し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙やハガキなどご本人へお渡ししている、電話は携帯持参している方は自由に他の方は希望に応じてお電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やオーブメントなどで心地よい刺激を受け取れるよう工夫。大きめのトイレのマーク、バリアフリーの床など安心安全への配慮を大切にしている。食事時はテレビを消して食事に集中できるようにしている。	玄関を入ると掲示板に全職員が写真入りで紹介されている。一日の大半を過ごすリビング内は季節の飾り付け（現在はハロウィーン）や利用者の「ぬりえ」等の作品が飾られており、生活の様子が窺える。中庭には家庭菜園として夏野菜を栽培している。また、廊下の所々には大きなソファが置かれ寛ぎのスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席やテーブルの位置など、それぞれにとっており良い居場所を確保できるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	掃除が行き届き清潔感が漂う居室は、洗面台と大きなクローゼットが完備されており、暮らし易い造りとなっている。持ち込み物は自由に家族と相談の上で、使い慣れた椅子、テーブル、タンス、テレビ、御位牌等が持ち込まれている。家族の写真や自分の作品に囲まれて思い思いの生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの残存機能を把握して、わかることを活かして提案し活動していただいている。		